

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 3 3	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Application of the Relapse risk scale to alcohol dependent individuals in Japan: Comparison with stimulant abusers. 日本におけるアルコール依存症再発リスクスコアの開発 向精神薬依存症との比較検討	
執筆者	
Ogaki Y, Yamashita M, Endo K, Haraguchi A, Ishibashi Y, Kurokawa T, Muratake T, Suga R, Hori T, Umeno M, Asukai N, Senoo E, Ikeda K.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Drug Alcohol Depend. 2009;101:20-26	
キーワード	
アルコール依存症、再発リスク、リスクスコア、向精神薬依存症	
要 旨	
<p>目的： 日本人アルコール依存症に対するアルコール依存症再発リスクスコア(ARRS)を開発し、向精神薬依存症の再発リスクと比較する</p> <p>方法： 日本人アルコール依存症既往のある患者 218 人 (入院、外来を含む 男性 181 人、女性 36 人) を対象に、向精神薬依存症再発リスクスコア (SRRS) に基づいた 32 項目の多角的自己評価尺度から構成されたアルコール依存症再発リスクスコア調査を行った。アルコール渴望感尺度、現在の飲酒状況、一ヶ月内のアルコール依存症再発を評価項目とした。</p> <p>結果： 要因の調査項目の解析は主に易刺激性、衝動性障害、アルコールに対する強迫感、アルコールに対する否定的な考えの欠如、アルコールに対する肯定的な考え、の 5 点を重視した。易刺激性、衝動性障害、アルコールに対する強迫感、アルコールに対する肯定的な考え、と ARRS の総合点数は、アルコール渴望感尺度や現在の飲酒状況と有意な関連を認め、この結果は両者の共通した有効性を支持している。易刺激性と ARRS の総合点数は有意にアルコール依存症の再発との関連を認めており、ARRS は SRRS と同様にアルコール依存症再発の予測に有用である。アルコール依存症患者は向精神薬依存症患者と比較して、依存症再発に関連する評価感情をより正直に表現する蛍光があった。</p> <p>結論： 本研究で開発したアルコール依存症再発リスクスコアは多角的精神性要素をとらえており、アルコール依存症再発要因を評価するのに有用であった。</p>	